

最近わかったことだ

が、昭和28年7月1日、

柳原白蓮は南宮峽を訪

れている。泰阜村と旧

大下条村の公民館・婦

人会が合同で講演会を

開いたのである。会場

は、新聞予告によれば、

泰阜村南宮館となつて

いる。泰阜村学校美術

館には、白蓮自筆の次

の書軸がのこされている。

久方の天路はるけき

おもひ(い)でに し

みじみ泣かむいとまも

なくて

この軸については、

寄贈者である彫刻家の

倉澤興世(後に泰阜村

名誉村民)が、「昭和

二十八年夏、南宮峽に

来遊せし折、乞うて揮

毫を受く」(同館作品

台帳に記載)と、その

由来を記している。つ

まり、この書は、当時

泰阜村公民館長だった

倉澤が、この時、白蓮

柳原白蓮と飯田下伊那 下

鎌倉貞男

に頼んで書いてもらっ

たものと考えられる。

滞留最終日の8日、

白蓮は旧平岡村(現天

龍村)を訪れた。その

頃、同村公民館が発行

していた新聞「明るい

村」(6月15日発行、

公民館報の前身)所載

の白蓮来村を知らせる

予告記事によると、講

演会は8日の午後一時

から役場で行われたら

しい。

演題は「母の愛情」

であった。主催は公民

館と婦人会だったよう

で、記念写真には当時

の平岡公民館長橋本義

雄(後に天龍村長、下

伊那町村会長)や同婦

せぬ天流の川

○大自然のちからのま

へ(え)に人の子は

なにをかおもは(わ)

むただ祈るべき

白蓮の書は、いずれ

も女性らしくつつまし

やかな書体で、細身の

小さな文字の散らし書

きである。変体仮名混

じりの旧仮名遣いの書

は、今日の我々からす

るととても読みにくい

が、なかなか品高く、

趣深いものである。

その他、例えば『千

代村誌』(昭和40年発

行)巻末の年表には

「柳原白蓮・三笠宮妃

母堂来村」と記されて

いるが、いつ、どこへ

来たのか等については

記されていない。

同様に、『川路村誌』

(昭和63年発行)の

「天龍峽主要来遊者の

記録」にも、「歌人柳

原白蓮、高木邦子来泊

とあるだけで、その詳

細は不明である。

そこで、関係地域の

公民館及び自治振興セ

ンターの窓口にもお尋

ねしてみたが、なにせ

60年も昔のことだけに

手がかりはなかった。

そんなわけで、今回

は文献や写真にのこる

白蓮の確かな足跡だけ

を紹介し

たが、な

お空白の

部分は多

い。また、

当地で詠

んだ他の

短歌も知

られてい

るが、こ

こでは限

られた一部にとどめ

た。従って、飯田下伊

那各地には、きつと白

蓮の作品や写真が他に

も多く埋もれていると

思われる。往時の白蓮

の足跡を明確にしてお

く意味からも、ご存知

の方や研究されておら

れる方々のご指導とご

連絡を心からお願ひし

て筆を擱く。

(故人敬称略)



旧平岡村の白蓮